

マスコミがふりまく薄論につきあっていたらキリがないけど・・・  
 4週連続かな、またしても新聞の切り抜き記事で恐縮です。

## 「きめ細かい支援策」という大ざっぱ

前々号でみた朝日新聞の記事では、日本の食料自給率の異常な低さが、じつは諸外国に比べて農産物の輸入関税も農業補助金も低いことによるものであると書いていました。ところが、その政治を転換する視点がないために、向上策を示すことができないでいました。

きょう転載するのは、同じく朝日新聞の社説 11/23 です。あいもかわらずというべきか、食料自給率を上げるどころではなく、もっと下げると主張しているのです。直接そう書いているわけではありませんが、結局、そういうことです。

傍線を引いたけど「きめ細かい支援策」。じっさいには何も提起できないくせに、こんな大ざっぱなお題目で現場の苦勞を切り捨ててしまっていることに怒りがわきます。あんたら新聞社の人たちは、机の上で米や野菜がつくれるのかあ!?

\*

さらに、下の段の社説の表題も見過ごせません。「消費者保護」を掲げて、国会の怠惰なるものを歯がゆ

がっています。なにをエラそうに・・・。

食料を輸入にばかり頼っている、質的な面で安心できないのはもちろん、量的な面でも不安が広がっているという世界の事態を、さんざん報道してきたのではないのか。

国内の農業をつぶせと書いたペンで、消費者保護をお説教するマスコミの空論に、なんとなく納得してしまう読者が少なくないだろうと憂うばかりではありません。

\*

この秋、うちの近所で、うちと同じくらいの規模で先祖代々やってきた農家が、稲作から撤退することになりました。つまり、もうこの人は、切り捨てられる農家の側ではなく、保護されるべき消費者の側にメダタクも移れたというわけです。

紙数がつきますが、マスコミや政治家だけでなく一般の人も、農家と消費者を対立させて語る例は少なくありません。でも、農業を守ることは、農家のためというよりは、誰よりも消費者のためだということを、ことあるごとに強調したい。



里のギャラリー 32

3 13 版 2008年11月23日 日曜

**社説**

**WT0交渉再開 保護主義を封じ込めよ**

世界貿易機関(WT0)の最高機関である閣僚級交渉(「Doha」)は、今年現在まで進捗が著しく、今年末に本格的な交渉が再開される見込みだ。しかし、交渉が再開される前に、WT0交渉の再開をめぐって、保護主義の封じ込めが課題となっている。WT0交渉の再開は、世界の貿易を活性化させる重要な契機となる。しかし、交渉が再開される前に、保護主義の封じ込めが課題となっている。WT0交渉の再開は、世界の貿易を活性化させる重要な契機となる。しかし、交渉が再開される前に、保護主義の封じ込めが課題となっている。

**消費者保護 国会の怠慢が歯がゆい**

消費者保護の観点から、農産物の品質向上や生産者の利益確保が求められる。しかし、国会の怠慢が歯がゆい。消費者保護の観点から、農産物の品質向上や生産者の利益確保が求められる。しかし、国会の怠慢が歯がゆい。

**日本はコメや小麦、バターなど農産品に対する高関税の大幅引き下げを求められている。当然、農家の反発はあ**

は、きめ細かい支援策をとりつつ受け入れるべきだ。

## コザかしい設計 ②

春に「完成」した用水路をみて、心配になったのは、夏の草刈り作業のことでした。ごろごろとした石が積まれただけの岸辺では、刈払機の歯がはじかれてしまって仕事にな

らないし、危険ですらあります。

そこを割り切って、自然の景観のために、はたして雑草を伸ばしたままにできるか・・・。案の定というか、秋が終わってから、追加工事がおこなわれたのでした。

